



(618 号付録)

京都版 第 473 月号

2025 年 12 月 15 日

治安維持法犠牲者

国家賠償要求同盟

京都府本部

〒604-8832 京都市中京区

壬生下溝町 51-41

TEL: 075-312-8787

FAX: 075-325-3863

E-mail

Info@kokubai-kyoto.com

ホームページ

http://kokubai-kyoto.com

## 治安維持法 100 年の今年を 振り返って

府本部長 原田 完

今年は治安維持法 100 年の年として、大きく注目される一年となりました。3 月の山本宣治墓前祭を始め、倉岡愛穂墓前祭、細井和喜蔵の文学碑建立等々が執り行われました。

国賠同盟京都府本部としては 7 月 25 日に念願の「レジスタントの京都・治安維持法下の青春」の初版本出版をすることができました。執筆には井口先生、岡田先生、勝村先生、本庄先生

および国賠同盟京都府本部のメンバーが関わり、4 年をかけて継続してきた研究会の集大成となるもので、発行に当たっては荻野富士夫小樽商科大名誉教授、穀田恵二前衆議院議員の推薦もいただきました。

8 月に開かれた「出版記念パーティー」では、渡辺和俊・日本共産党京都府委員長、れいわ新選組のシンクタンクとも言われていた松尾立命館大学教授、

私たちの運動と少し距離があると思われるいた平井部落解放同盟京都府連委員長、倉林明子前参議院議員、穀田恵二前衆議院議員、そのほか研究者や学識経

験者、各団体、個人の多くの方々からお祝いの言葉とともに、私たち治安維持法国賠同盟への激励と期待の声が寄せられました。

治安維持法 100 年の今年は国賠同盟の全国方針として、市民との共同した大規模な市民集会の開催が提起されました。京都府本部では近畿ブロック交流会開催担当として、9 月に近畿ブロック会議とリンクした講演会「治安維持法 100 年を問う・もの言わさぬ国家は NO! 京都のつどい」を開催、国賠同盟中央顧問でもある治安維持法研究の第一人者の荻野富士夫・小樽商科大学名誉教授による講演を受けました。

次に地元京都の主要団体からの発言があり、井口府立大元学長・名誉教授は「レジスタントの京都」の出版で、京都の治安維持法に関わっての京都の掘り起こしと顕彰、新婦人の沢田会

長は治安維持法と女性蔑視ジェンダー問題、京都総評の梶川議長からは秘密保護法、経済秘密保護法に関わりその危険性と労働現場の問題点の指摘、日本共産党の渡辺京都府委員長は、排外主義とスパイ防止法と改憲への危険性の指摘と闘い、各団体の運動と現在の政治情勢の下での問題点と新たな運動への決意表明がありました。

講演会は SNS でも配信されましたが、400 人を超える参加となり会場に入りきれず立ち見やロビーにまであふれる超満員で、大成功をおさめた市民集会となりました。参加された多くの方々は参政党や維新の伸長、スパイ防止法や排外主義の拡がりに対し、このままでは危険という強い思いで足を運ばれたのではないのでしょうか。

今年ほど私たちの運動がマスコミに取り上げられた年はなか

ったかと思っています。宇治・山宣会の学習会での治安維持法と過酷な拷問の報告が洛南タイムスで取り上げられ、4月22日治安維持法が公布された日には、「治安維持法公布100年・性的拷問・信念は曲げず・民主社会・源の女性たち」と全国版で報道されました。その後MBS(TBS系列)の報道特集の治安維持法問題で高知出身の小松さん、群馬の山田寿子、北海道の菱谷さんを中心に放送され大きな反響を呼びました。さらに京都新聞、毎日新聞京都版、朝日新聞京都版、京都民報、赤旗日刊、機関誌「前衛」、月刊誌「女性ひろば」と多くのマスコミ等に報道され、各地、各団体の所で治安維持法に関する学習会の講師要請が国賠同盟京都府本部に寄せられています。

高市自民・維新政権は民意切り捨ての議員定数削減、治安維

持法再来とも言われるスパイ防止法の早期制定に突き進んでいます。医療介護、労働法制の改悪と暮らし破壊の悪政を推し進めようとしている今日、ますます国賠同盟の役割は重要となってきました。私たち国賠同盟各支部での学習会や勉強会の積極的な開催を企画し、同盟員拡大の力にするとともに反動ブロックへの闘いに取り組みましょう。



### 「不戦の集い」開催

―二度と悲惨な戦争を繰り返さないために―

2025年「不戦の集い」が12月6日(土)にラポール京都の第8会議室で開催されました。

開会あいさつで、森川明代表

世話人は、「今年は治安維持法が制定されてから100年になるが、この年は普通選挙法も制定されており、選挙権を与えるに当たって時の政府は労働者などを弾圧する為に治安維持法を制定し、3年後には国民弾圧の悪法になっていった。戦後に無効となったが、今日再び「スパイ防止法」として提案されており何としても廃案にしなければならぬ」と呼びかけました。

### 記念講演は

「レジスタントの京都」出版で見えてきたもの

「不戦の集い」要旨

府本部副会長 佐藤 和夫

はじめに

2025年夏の参院選挙後、「スパイ防止法」の制定問題とか、国家情報局創設問題など、戦争前夜を思わせるキナ臭い話

が目立ちます。しかも、「既視感」があります。一つは、あの15年間つづいた「アジア・太平洋戦争」の政治過程では、1940年にマス・メディア統制として内閣情報局がつくられ、治安維持法改定で予防拘禁制度が導入されました。

もう一つは、朝鮮戦争前夜に、反共宣伝が強化されレッド・パージが行われました。



「不戦の集い」講演 佐藤和夫副会長

敗戦後、占領軍が特高や思想検事を治安政策の下請けに―ある思想検事吉河光貞(ゾルゲ事件の担当)の戦後の軌跡から

当初、占領軍は軍国主義の担い手「戦犯」追放が治安政策の中心でしたが、東西冷戦が深刻になると、労働攻勢を抑えるために「公務員のスト権」を不当に奪う「政令201号」や「団体等規制令」を出させました。

この下請け機関的な法務府特別審査局長から1952年の破防法成立と公安調査庁設置の中心的役割はたした元思想検事出身の吉河光貞(3代目の公安調査長官、1964年5月から68年9月まで)がいました。

また、彼吉河は、マッカーシの「非米委員会」にGHQのウィロビー要請で証人として、「ゾルゲ事件」について発言しました。東西冷戦下の情報戦とレッド・パージの必要性和情報共有を証言しました。

「朝鮮戦争」前夜の学術会議問題と谷善について

衆院文部委員会(1950・2・17)で共産党の谷口善太郎委員質問。学術会議から政府の「科学技術行政協議会」への委員推薦(12人)のうち一人がはずされた。

科学技術行政委員会は関係各行政機関の官吏(次官クラス)及び学識経験者の内から内閣総理大臣が任命し、学識経験者のあるものを任命する場合においては、日本学術会議の推薦を尊重しなければならいとされていた。

谷善は「すでに羽仁五郎君以下12名の委員の推薦がありまして、そのうち山田勝次郎君という人だけが、いまだに任命されていない」のはなぜか質問しました。山田は元京大助教授でマル経の『地代論』の研究者で共産党にカンパしたとして治安維持法で検挙歴がありました。

当時の学術会議は選挙で選出

の特別職公務員が政府は、共産党系とみなし任命を忌避したのではないかと推定されました。ところが、山田の任命を交換条件に、「法務府から官房長が来て委員でなくてもオブザーバーでもよいから出さない具合が悪い申し入れがあった」と答弁しました。裏で動いたのは、占領軍の意向を受ける法務府特審局河だらうと推測されます。学術会議委員の発言を規制すためでした。

《次号に続く》



「集い」終了後 四条大宮で街頭宣伝

清水寺宣伝に6人参加

毎月10日の清水寺宣伝に久しぶりに6人が参加しました。



清水寺宣伝

清水寺自慢の紅葉は盛りが少し過ぎていましたが、多くの観光客で大変な混雑です。

九州からの修学旅行で来た高校生たちが、興味を持って熱心に質問などして聞いてくれました。

四季折々に素晴らしく、観光客に人気の清水寺境内での宣伝はこれからも続けます。

## 支部だより

### 京丹後支部

副支部長 森 勝

京丹後市も初雪が降り「弁当忘れても傘忘れるな」と言われる「うらにし」の季節になってきました。第1回支部委員会を受けて活動を開始しましたが、昨年と比べると各分野で遅れが目立ちます。

国会請願の個人署名は一人で65筆を集めた牽引役の役員もいますが全体的に弱く12月10日現在220筆(昨年400筆)です。

団体代表者署名は、11月18日より各団体に依頼に回り始めたばかりでまだ6団体(昨年は9団体)とこれからです。

同盟費についても66%(昨年84%)の納入率です。

「不屈」丹後版は10月より発行を再開しました。

「新春のつどい」を2026年1月24日(土) 丹後民主商工会で行います。

激動する政治情勢のもと會員の活動交流を行い、京都府知事選挙勝利始め諸課題の達成に向けて決意を固め合うスタートにする予定です。

#### その他

①「米軍基地いらんちゃフェスタ2025 in 丹後」(11月9日)に多くの同盟員が参加。(全体で450人)

②加悦町で行われた、「細井和喜蔵没後100年記念式典・記念講演」(11月22日)には京丹後支部から5人が参加しました。多忙な役員ばかりですが各同盟員にも訴え、遅れている諸課題の達成に向けて年末まで力量に

応じた活動で頑張り新年を迎えたいと思います。

### 宇治洛南支部

支部長 山崎恭一

宇治洛南支部第14期総会を開きました

府本部佐藤和夫副会長が記念講演

12月7日に宇治洛南支部総会を開きました。

宇治、城陽、京田辺、久御山などから20名が出席しました。

来賓として、国民救済会宇治城陽久御山の会の堀江幸雄さん、

日本共産党洛南地区委員長石川和司さん、宇治山宣会会長藪田

秀雄さん(文書メッセージ)からご挨拶を頂きました。

記念講演は、府本部副会長の佐藤和夫さんに『レジスタントの京都』出版で見えて来たもの』。

7つの話題について一つ一つ掘り下げた話をしていただきました。

総会議案は、準備中に起こった祝園ミサイル反対の大集会や高市政権の誕生と暴走などの新たな情勢を反映させた追加議案を加えて提案。討論では、関西電力での思想差別の歴史について、祝園弾薬庫のミサイル格納庫の建設場所が京田辺市打田地区と公表されたことなどが報告されました。スパイ防止法案や急ピッチの軍拡など、進行する危険な動きとそれに抗する運動などを反映したものでした。

役員改選では新たに2人の新役員を含めた15人の新体制が承認されました。コロナで集まっていた総会が開けなかったり、ごく少数の総会が続いていましたが、今年は出席者も増えて元気な総会となりました。